白糠「陽向ぼっこ」に助成金

光と愛の事業団 格安「学習塾」運営

恵まれない子どもたちの支援活動をしている団体に資金援助する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」で、白糠町のNPO法人「陽向ぼっこ」が今年度の助成先に選ばれた。小学生を対象にした格安の学習塾の運営に充てられる。

2010年に設立された同NPOは、高齢者の憩いの場づくりや認知症予防の活動に加え、貧困による学力格差の解消など子どもたちが安心して暮らせる取り組みに力を入れている。

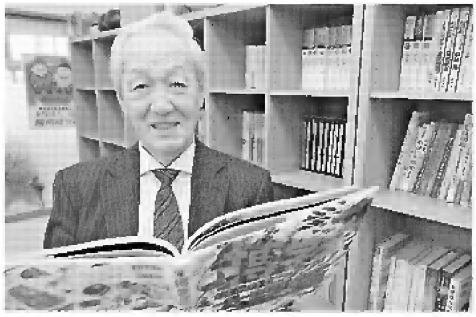
20年に始めた学習塾（年会費1000円）には今年度、小学3～6年生9人が参加し、週2回、英語を中心に授業を行っている。「希望塾」と名づけた活動で、同NPOの儀同一義代表理事(86)は「見守ってくれる大人がいることを子どもたちが感じ、希望を失わないでほしいと願いを込めた」と語る。

図書室には参考書や図鑑、読み物など約1000冊をそろえ、阿寒湖や動物園を見学する遠足などのイベントも開いている。勉強と共に礼儀の大切さも教えており、保護者からは「家で自主的に勉強するようになった」「あいさつができる子になった」などの声が寄せられるという。

歌志内市出身の儀同さんは小中学生時代、父の仕事の都合で16回転校し、50歳代で大病を経験した。自身の苦労と周囲に助けられたことが活動のきっかけといい、「家庭環境で学習機会が減ったり将来の選択肢が狭まったりする社会ではいけない。子どもたちが元気と明るさを持って成長できるよう応援し続けたい」と話している。

◇

今年度の子ども育成支援事業は、読売光と愛の事業団の予算500万円に加え、事業の趣旨に賛同した読売巨人軍が100万円を寄付している。



上「子どもたちが希望を持てる環境をつくりたい」と話す儀同さん（白糠町で）

下「希望塾」で学ぶ子どもたち（陽向ぼっこ提供）

路線バス 継続と活気

4町村連携 公営で運行

神恵内―岩内

神恵内、泊、共和、岩内の4町村などでつくる「岩宇地域公共交通活性化協議会」は1日、神恵内・岩内高路線バス「おかぜライ」おかぜライ めた。ほぼ 9月30日で 中央バスの き継ぐ形だ

道交通企 間の廃止路 まま、複数 て引き継ぐ いう。4町 線の廃止を 通を模索し 全国でコミ どを手がけ

▲発車する「おかぜライン」始発バス。美術部と書

郵便集配車で住民を送迎

上士幌で実証実験

郵便の集配車に高齢の住民を乗せて運ぶ貨客混載の実証実験が1日、上士幌町

子ども支援 2団体助成

光と愛の事業団

読売光と愛の事業団は、「子ども育成支援事業」の今年度の助成先に「しおかぜホーム」（松島町）と「まちとこ」（女川町）の2団体を選んだ。同事業は、子どもの健全育成に取り組む団体を支援するもの。両団体には各50万円が贈られ、食材購入費や家賃などに充てられる。今年度の子ども育成支援事業は同事業団の予算500万円に加え、事業の趣旨に賛同した読売巨人軍が100万円を寄付している。

困窮家庭に食料提供

「しおかぜホーム」（松島町）

食料配布の準備をする北條さん（12日、松島町で）

ひとり親家庭や生活困窮世帯向けに弁当や食料品を無償提供する「しおかぜ食堂」を毎月1回、松島町文化観光交流館で開いている。親子で参加でき、触れ合いの場にもなっている。

「しおかぜホーム」の北條久也事務局長(64)は小学校教諭を退職後、家庭相談員として虐待を受けている子どもや、ひとり親家庭の支援などに取り組んだ。

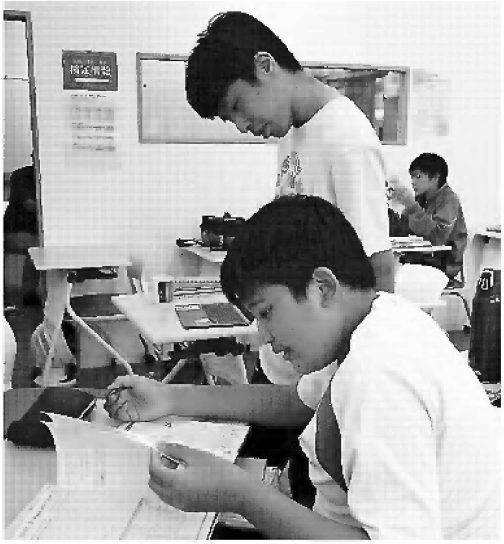
目の当たりにしたのは、食事を取る場所やご飯を買うお金がない子どもたち。助けが必要な人たちに確実に支援が届くようにと、しおかぜ食堂の活動を2021年11月から始めた。

しかし初回に訪れたのは14人ほど。チラシを配ったり、SNSを使ったりして活動を周知するとともに、より多くの食料品を確保するために企業や団体を回って支援を求めた。

地道な取り組みが奏功し、今年8月には弁当を1200個、食料品は185キロ分を配布するまでになった。ボランティアに地元の高校生も加わるようになり、北條さんは「みんなで助け合える町を作りたい」と手応えを感じている。

安心できる居場所を

「まちとこ」（女川町）



勉強に励む中学生ら。庄子さん（手前から2人目）もスタッフとして運営を支える（9日、女川町で）

女川駅から海へ延びる道沿いにある道の駅。その一角に「女川向学館」はある。一見、学習塾のようにも見えるが、スタッフが学習を促すことはない。子どもたちが安心できる「居場所」にしたいとの思いからだ。

東日本大震災で甚大な被害を受けた女川町。学習の場を提供するため、2011年に開いた。中高生を対象とした放課後学習支援には現在、約60人が登録する。子どもたちは教科書や宿題など、それぞれの課題を携えて集まってくる。経済的な理由に左右されないよう月謝は受け取らない。

「大人になった時、この場所が町に戻ってきたいと思う理由の一つになってほしい」。スタッフの庄子宙さん(23)は震災後に向学館で学んだ一人。町のために何か還元できれば、と今年4月から働き始めた。

「まちとこ」の山内哲哉常務理事(52)は「多くの人と出会い、互いに学び合う。ここはたくさんの人に支えられている。感謝の気持ちを返せる人に成長してもらいたい」と語り、優しいまなざしで子どもたちを見守っている。

秘伝

生産者らから「秘伝豆」の入ったゆうパックが郵便局関係者に手渡された（17日、角田市で）

角田市の地元ブ

「秘伝豆」のおい

ピールしようと、

伝豆ゆうパック」

った。ゆうパック

は今年が初めてで

心に出荷される。

秘伝豆は大粒で

り、強い香りと甘

年は暑さの影響で

能登復興応援 仙台で上映会

26・29日

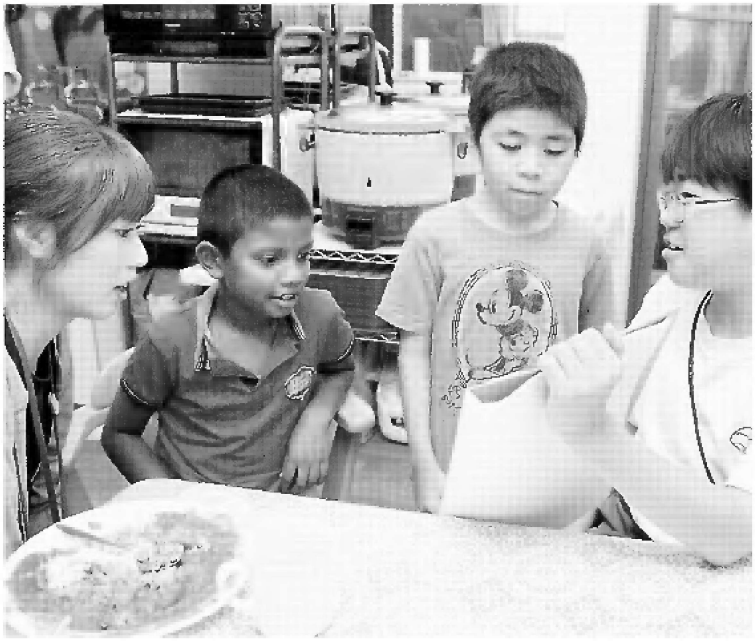
能登半島の魅力を知り、震災からの復興を応援しようと、能登の暮らしや伝統

映画「ひとにぎりの塩」の一場面（石井かほり監督提供）

前橋のこども食堂に助成

読売光と愛 運営費に30万円

子どもたちの健全な育成に取り組む団体を支援するため、読売光と愛の事業団が創設した「子ども育成支援事業」の助成団体に、県内からは今年度、前橋市の任意団体「こまがたつくし」が選ばれた。助成金30万円はこども食堂の運営費などに充てられる。



こども食堂で会話を楽しむ参加者たち（6日、前橋市で）

■住民呼びかけ

「部活動が大変で膝が痛いんだよ」。こまがたつくしが6日に開いたこども食堂に小中学生など約40人が集まり、カレーを食べながら話に花を咲かせた。地域の高齢者も輪に加わった。

こまがたつくしは2019年9月に発足した。代表の輪島政子さん(81)が地域の活動に取り組む中、子どもたちにおいしいご飯を食べてもらいたいという気持ちが強くなり、近隣の住民に呼びかけて始めた。

■月1回の会食

新型コロナウイルスの感染防止で、手製の弁当を配布するところからスタートしたが、コロナ禍が落ち着いた昨年9月から、「子どもたちの居場所づくりと交流の場を」と月1回の会食に切り替えた。会場は輪島さんの自宅。現在は会員4人を中心にボランティアを含む20人で運営し、生活協同組合コープぐんまなどから食材提供を受けている。

活動について語る輪島さん

■高齢者も利用

今年5月から一人暮らしの高齢者も利用できるようにした。輪島さんは「子どもたちに、幅広い世代と交流してもらいたい。高齢者も子どもたちとつながり、地域の孤立をなくしていきたい」と語る。

食事前には、近くの神社社務所や空き地を活用し、ボランティアが子どもに宿題を教えたり、一緒にゲームで遊んだりもする。小学校教諭を目指し、ボランティアとして参加する大学2年、五十嵐柚香さん(20)は「ここでは子どもたちと話ができ、私も勉強になる」と話した。

◇

24年度の子ども育成支援事業は、読売光と愛の事業団の予算500万円に加え、事業の趣旨に賛同した読売巨人軍が100万円を寄付している。

流山の子ども食堂に助成

光と愛の事業団

青空交流 食材費に

読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」の今年度の助成先として、流山市の「南流山子ども食堂の会」が選ばれた。助成金16万円は、子どもたちが主役となる青空交流食堂の食材費などに充てられる。

同会は貧困家庭の親子らを支援するため、金川聡美代表(43)が2017年に設立し、月2回、食事提供や学習支援を続けてきた。当初は貧困家庭が中心だったが、回を重ねるうちに、お年寄りや家庭内暴力を受ける女性、性的少数者など様々な人たちが集まるようになった。

世代間の交流を通じて、子どもたちも食事作りに参加するようになり、元気になっていった。そんな子どもたちの姿を見て「やりがいや自尊心を育む体験をさせたい」と、今年5月から「青空えんてらす」の活動を始めた。

「青空えんてらす」は月1回、JR南流山駅前で子どもたちが作ったカレーライスを乗降客や駅員、地元住民など駅に集まる全ての人に配る青空食堂だ。カレーには市特産のみりんを使い、調理や配膳から会場設営、JRや警察へのあいさつ回りまで子どもたちが主体となって運営している。

金川代表は「子どもたちができることはいっぱいあるし、任せることで生き生きとしている。地域や社会とのつながりを持つことで、達成感や自信にもつながる」と手応えを語る。

昨今の物価高騰や米不足により、運営は厳しさを増している。そんな中、子どもたちは、食べ残しやプラスチックごみを出さないよう心がけるようになったという。助成金は紙容器や食材費に充てる方針で、「非常に助かるし、子どもたちと大事に使っていきます」と話している。

＊

24年度の子ども育成支援事業は、同事業団の予算500万円に加え、事業の趣旨に賛同した読売巨人軍が100万円を寄付している。

調理する子どもたちに声をかける金川代表（中央）

正月用の護摩札に文字を入れる僧たち（成田市の成田山新勝寺で）

光と愛の事業団

日大「桜んぼ塾」を助成

子ども育成

子どもたちの健やかな成長を支える活動を応援するため、読売光と愛の事業団が創設した「子ども育成支援事業」の今年度の助成先に、世田谷区の日本大学文理学部の学習支援ボランティア「桜んぼ塾」が選ばれた。助成金42万円は、子どもたちにおにぎりを提供するための米代や、送迎用の自転車購入費に充てられる。

活動に充て、子どもたちが安心してすごせる居場所にしてもらうことも目指している。

10月からは、コロナ禍で中止していた勉強の合間に食べるおにぎりの提供を再開する。自転車で来る子どもを自宅まで一緒に送っていくための自転車も増やした。岡川さんは「学生とお子さん双方が楽しめる活動を続けていきたい」と話している。

◇

今年度の子ども育成支援事業は、同事業団の予算500万円に加え、事業の趣旨に賛同した読売巨人軍が100万円を寄付している。

学習支援 学生がプリント

学生が手作りしたプリントを見る岡川さん（中央）ら桜んぼ塾のメンバー（25日、世田谷区で）

桜んぼ塾は2006年に設立された。児童養護施設やひとり親家庭、不登校やひきこもり状態にある子どもたちを対象に、毎週金曜の午後6時～7時半に同大キャンパス内の教室で、学生が学習支援を行う。

特徴は、子どもたちが次週に勉強したい内容を記入した学習計画表を手がかりに、学生が学習プリントを自作することだ。かわいいイラストなどが入ったプリントを用意する目的について、塾長で文理学部3年の岡川恵美子さん(20)は「自分だけのためにお兄さん、お姉さんが作ってくれたと喜んでくれたら、学習効果も高くなる」と話す。

現在は小中高校生11人が通う。同学部の学生77人がメンバーとなり、一人の子どもを複数の学生が担当しチームで支援している。毎月1回は、トランプなど学習以外のレクリエーション

女性活躍

都はこの秋、「卵子凍結」「女性経営者」をキーワードとした三つのイベントを相次ぎ開催する。女性が活躍できる社会のムードを醸成する狙いがある。いずれも無料で、専用ホームページで参加者を募集する。

将来の妊娠・出産に備えて女性が卵子を保存する卵子凍結に関するセミナーは30日、「東京ウィメンズプラザ」（渋谷区）で開かれる。

都は都内在住の18～39

温かいご飯と居場所を

光と愛支援事業　敦賀の子ども食堂

開設9年「多くの支えのおかげ」

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」に、県内から敦賀市の一般社団法人「青空」が選ばれた。2015年から月2回開いている「子ども食堂」の食材費に50万円が充てられる予定だ。代表理事の中村幸恵さん(58)は「地域の子どもに栄養のある食事を提供し、子どもが困ったことを相談できる場所を作りたい」と意気込む。

（高山智仁）

子どもたちが安心できる居場所となっている「こども食堂青空」（敦賀市で）

中村さんは15年、県内初の子ども食堂となる「こども食堂青空」を開設した。自身が子育てをする中で育児に関する書籍を読み、子ども食堂の存在を知ったのがきっかけだった。

その頃、子どもを通わせた幼稚園の保護者らから「母親が病気で、一人でご飯を食べている子どもがいる」「両親が共働きで、子どもが菓子パンばかり食べている」といった話を耳にした。調理師の資格を持っていた中村さんは「敦賀でも大変なことになっている。子どもたちを何とかしたい」。いても立ってもいられず、敦賀市の担当者や民生委員らに相談を重ね、子ども食堂の開催にこぎ着けた。

現在は毎月第1、3火曜の午後4～8時に同市川崎町の会館を会場に開設。子どもたちに「この場所は安心できる」「ここに来れば、ちょっとしたことでも相談できる」と感じてもらえるよう、食事だけでなく、宿題をしたり遊んだりすることができる。

小中学生や高校生ら40人程度が参加。食材や食費は農家や市民、支援団体からの寄付で賄われ、これまでに社会福祉士や民生委員、保育士、大学生らがボランティアとして協力している。9年が過ぎ、子どもたちが安心できる居場所として定着し、市民らから「気軽に参加できる」と好評だ。

中村さんは「多くの人の支えのおかげで運営が続けられており、参加していた子どもが成長して運営側のスタッフになってくれたこともある。子どもの心身の健康のため、次世代にもこの場所をつなぎたい」と話している。

オンラインで何が見える?
ご登録はこちらから
読売新聞オンラインならいつでもカラー紙面
大阪本社版朝刊の各地域版

テックフォース4人 能登派遣

石川県の能登
記録的な大雨を
福井河川国道事
の被害状況を調
災害対策派遣隊
の道路班4人を
テックフォー

道路